

広報



2000
1/1号
No388



辰年

十二支中唯一の空想の動物

十二支の5番目の十支である辰（たつ）は、十二支中のただ一つの空想上の動物です。一般には「竜」と書き、「タツ」または「リュウ」と呼ばれています。

竜の伝説は世界各地に分布しており、さまざまな形で伝えられています。

その姿は、おおむねヘビやトカゲのような体に、角をもった猛禽類（わし・たか・はやぶさ・ふくろうなどの、肉食の鳥。くちばしや爪がするどい。）か猛獣の頭、それに翼を組み合わせた形で描かれています。また、竜の性格や役割も、悪役になったり、神聖な動物として扱われたりと、地域によってさまざまです。

ごあんない

- (P 2~3) ……年頭のごあいさつ
- (P 4~13) ……まちのわだいほか
- (P 14~15) ……こんにちはは保健婦です
- (P 16~17) ……みんなのひろば
- (P 18~21) ……くらしの情報

水や雨をつかさどる

竜神・水神のシンボル

日本では、竜は神聖視されており、古代神話にも竜が登場しています。

『古事記』と『日本書紀』には、トヨタマヒメの産屋での変身をヒコホホデノミコトが見る下りがありますが、古事記では八尋のワニになったとあり、日本書紀には「竜となりぬ」と記されています。

また、竜は雲を呼び、雨を降らせるとして残っています。

困難を乗り越えて躍進する年へ

「竜」のつく言葉では、「竜頭蛇尾」りゅうとうだび「画竜点睛」がりょうてんせい「登竜門」など、中国の古事に由来する言葉がよく知られています。

「登竜門」とは、黄河上流の急流の峡谷、竜門をのぼりきった魚が竜に変わったという伝説から、成功への一歩となる難関と言う意味があります。

竜年にあやかり、今年は難関を突破し、飛躍の年にしていきたいものです。



福岡県金田町

2000年(平成12年) 年頭のごあいさつ

謹んで新春のお慶びを申し上げます

みなさま方には、清々しい新年をお迎えなされたこととご推察申し上げます。

平成12年、すなわち西暦2000年の記念すべき年頭に、ごあいさつを申し上げる機会をお与え下さいました町民のみなさまと議会議員の方々に、深く感謝申し上げます。

さて、いよいよ社会は21世紀の新時代に突入し、政治、経済はもちろん、教育、環境、老人福祉等々、あらゆる分野にわたり、急速なる情報化の進歩発展と共に大きく変貌するものと思われまふ。そして、そのどれもが私たちの生活に、密接な関わりを持つものばかりでございます。

私たち町議会は、町当局と共に、この時代の急速なる変動の列車に乗り遅れることのないよう的確な対応を心掛け、明るく住みよい金田町の発展のために益々切磋琢磨して、議会に寄せられます町民各位のご期待にそうよう精進努力をしておりますので、町民のみなさまには今後とも深いご理解とご支援を賜

わりますようお願い申し上げます。

終わりにになりましたが、みなさまの益々のご健勝とご多幸をご祈念いたしまして、ご挨拶といたします。

議会議長 若林佐久馬



謹んで新年のご挨拶を申し上げます

今年、西暦2000年にあたります。西暦紀元とは、イエス・キリストの誕生した年を第1年として起算したもので、西暦525年、ディオニシウス・エクシギウスという神学者が、この方法を提唱し、それに基づいて後の人々が採用した方法です。(後の研究では、キリストの誕生は西暦紀元前4年と計算されていますが、今更変えるわけには参りません。)

日本では明治6年(1873)に太陽暦を使用に際して、日本書紀の記録により『神武天皇即位の年』を紀元と定めて戦中まで続けられました。(これを東暦とは言いませんが)それによれば、今年2660年にあたります。

他の国でも独自の方法をとっているところもあるそうですが、人類共通の時間を表わす尺度として、単に『2000年問題』に限らず、普遍性を基とする暦は歴史認識の上でも文化活動のためにも必要なこととあります。

宇宙ができて150億年、地球の年齢は46億年と言われています。人類は、その悠久の時間に比べると石の火花にも似た短いものです。けれども私ども人間の祖先は、多くの生物と共に宇宙の時間と地球の自然に育かれ生きて今に到りました。

しかし、反面では経済的矛盾、国際紛争、環境汚染、犯罪、教育、思想、人種差別等々、心の闇とも言えるたくさんの困難が生まれつ

つあります。世界50億の人々は、交通通信情報網によって常に繋っているため個人の生活は決して個人だけでは済まない現実です。新ミレニアムの1000年。金田町はどう変わっていくことでしょうか。

私はこれから先の将来、この故郷の可能性と進歩を信じていることができます。この町の小、中学校の児童生徒、それを生み育てた親、家族、町民のみなさま。それと秀麗な山川風土。何と美しいことでしょうか。光り輝いている自然よ、人よ、限りない未来よ、何と喜びに満ちていることでしょうか。「おめでとうございます。」

教育長 田中貴美男



あなたの身近な出来事、地区の話題など
どしどしお寄せください。お待ちしております。
連絡は、広報担当(☎22-0556)まで。

獅子楽奉納紀行



平成元年11月、京都・伏見稲荷奉納

金田町稲荷神社一区獅子保存会は、地元稲荷神社の秋季大祭で毎年、獅子舞を奉納しています。

獅子保存会では、獅子舞の伝統を守るため、日本の三大稲荷に獅子舞の奉納を行ない、会員の結束をはかろうと計画し、平成元年11月にまず、京都の伏見稲荷に総勢25人が参加し、奉納を行ないました。

よその土地で、初めての獅子舞ということで、緊張の中にもやる気があふれ、素晴らしい奉納ができました。その時の、伏見稲荷の大きさや歴史の深さに、大きな驚きと感動があったことは、今でも心に残っています。

続いて、平成3年2月に佐賀県の祐徳稲荷に奉納を行ない、本殿での奉納と一般参拝者の参道でも、獅子舞を披露しました。2ヶ所とも囃子方は、烏帽子に白装束といういでたちで、笛、太鼓、鐘がよく鳴り、獅子との息もぴったりで、参拝者の方もしばし足を止められ、カメラに納めたり、話を聞きに来たりしていました。

平成8年、三大稲荷とは別に、三重県の伊勢神宮に奉納。7月初旬で、梅雨が残り大雨の中、能舞台上で奉納をさせていただきました。



平成8年7月、三重県・伊勢神宮奉納

そして、今回平成11年11月27日、15人で残る愛知県の豊川稲荷の奉納を行ないました。

豊川稲荷は、伏見や祐徳の神社とは違って、正式名を妙厳寺という曹洞宗の寺であるという特色があります。この本殿で、ご祈禱を受け舞台上で奉納を行ない、参拝に訪れていた大勢の方から大きな拍手を受けました。

保存会では、奉納にかかる費用を各自自己負担をして、10年という年月をかけ、当初の目標であった三大稲荷(京都の伏見稲荷、佐賀県の祐徳稲荷、愛知県の豊川稲荷)と伊勢神宮に、獅子舞の奉納を無事終えることができました。

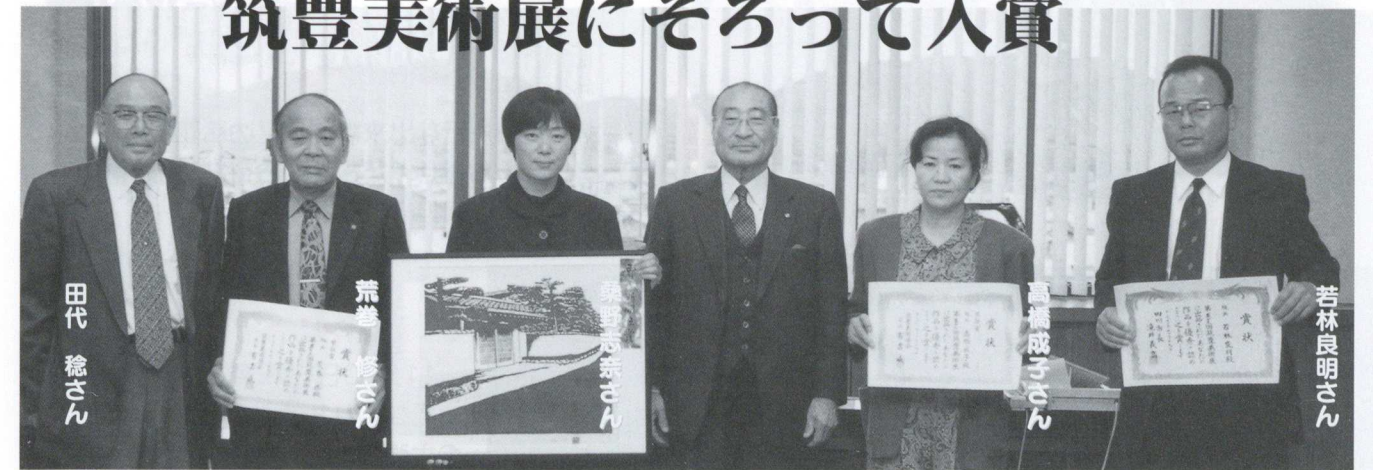
今回、一応の区切りとなりましたが、これに終わらず、今回は、島根県の出雲大社での奉納を行ないたいという声もあり、夢は、限りなく続いています。

一区融睦会会長 福田豊徳レポーター



平成11年11月、愛知県・豊川稲荷奉納

筑豊美術展にそろって入賞



11月16日～21日にかけて開催された筑豊美術展・版画の部(19日受賞)で、金田町版画教室(代表・田代稔さん)の生徒の、東金田・桑野志奈さん(西日本新聞社賞)、神崎2・若林良明さん(田川市長賞)、人見・荒巻修さん(奨励賞)、宝見・高橋成子さん(奨励賞)の4人が、各賞を受賞しました。

この美術展には、筑豊地区より版画をはじめ、洋画、書道、陶芸、生け花等の文化的芸術品が集まり、多数出品の中から選ばれます。

版画の部各賞を、金田町より出品作で独占したのは初

めてのことで、この美術展で評価されたことは、みなさんのレベルの高さがうかがえます。

この版画教室は、毎月1回第1週火曜日、午後7時30分～9時30分までの2時間、町民会館で行なわれるだけで、あとはみなさん独自で学び、分からない点があれば、田代稔さんの指導を受けているということです。

また、この4人のみなさんは、版画を初めて2年目で大きな賞を手に入れました。片手間に趣味として版画を楽しみ、日ごろから目にとまる風景などを心に刻み、残していくことが評価されたのではないのでしょうか。



桑野志奈さんの作品



若林良明さんの作品



高橋成子さんの作品



荒巻 修さんの作品



神待祭

神崎飯土井神社で11月30日夜、神待祭を行なった。

神待祭は、旧暦の十月「神無月」出雲大社に集まった神様が、戻ってくるのを待つ行事。

地域では一時途絶えていたが、3年前より復活させ、神待祭実行委員長・永末九州男(二十日会後援)ら、約30人が、たき火を囲み、かつぼう酒を酌み交わしながら親睦をはかり、昔の神待では食物を各家庭より拝借したことなどの話などをした。

藤村泰久レポーター

あなたの身近な出来事、地区の話題など
どしどしお寄せください。お待ちしております。
連絡は、広報担当(☎22-0556)まで。



夫と二人三脚の夢づくり

11月30日～12月1日に、東京新宿で行なわれた第3回『フレッシュミズの主張』JA全国集会に、福岡県代表として選ばれた金田町神崎2の永富千里さんが、全国コンクール(全国より参加した71人中)で、優良賞に輝きました。

このフレッシュミズの主張とは、専業農家で35歳以下の女性が、農業を運営するにあたり、男女の共同参画や、今後の女性の農業経営への参画、女性組織づくりのあり方などを探る全国組織の大会です。

賞に選ばれた永富さんの主張を紹介します。

人間「上を見ればきりが無い、下を見れば後がない」この言葉が私のスローガンです。

私は、福岡県のほぼ中心部で、福岡市や北九州市へも車で1時間ぐらいで行ける中元寺川沿いの、田川郡金田町という町全体の面積が740ヘクタールと県内で2番目に小さく、水田面積も140ヘクタール程しかない町に、嘉穂郡より平成元年に嫁いできました。

家族は、養父、養母、祖母そして夫との5人家族でしたが、子どもが2人生まれ、現在は7人家族です。

嫁いだ時、養父が水稲6ヘクタールと、麦が6ヘクタールに大豆3ヘクタールの複合経営の専業農家を営んでいました。夫はサラリーマンで、私も専業主婦でいることができました。夫も農繁期の忙しい時期だけ加勢をする程度でした。

しかし、養父が60歳の時、「農業を夫に譲りたいが」と私たちに相談があり、夫は何日も悩んだ末、脱サラをして専業農家の後継者となる決意をしました。今から6年前のことです。

その時「農業は俺がするから、お前は一切手伝わなくていいから…」と言う約束でしたのに、何が何かが、専業農家になるのを機に、ミニトマト55アールのハウスを建て、3カ月もしないうちに「少し手伝ってくれないか」から始まり、今では、私が働くのはあたり前、ハウス栽培は私まかせになってしまいました。最初の

頃はハウスに行くのが嫌で嫌でたまりませんでした。少しずつ作業に慣れてくると作物をつくる楽しさ、難しさがだんだん分かるようになって来ました。そして、農作業の無理や無駄、作業の合理化などを夫と相談しながら、自分の考えを対等に話せるようになりました。それに、自分の意見を夫に言えるようになると、家の中での居場所が少し大きくなったような気がします。

ミニトマト栽培を始めてから、4人のパートさんと夫と私、それでも55アールのハウス作業は、朝8時から夕方6時まで働いても手いっぱい、時間の短縮など考えられませんでした。また、サラリーマンをしていた夫も、1日8時間労働はあたり前という気持ちがあるようでした。私は「今の労働時間を短縮しよう」と、夫に話し「パートさんの人数を増やせばいいのでは…」と持ちかけました。

まず、朝9時から夕方4時までにして、パートさんを3人増やして7人にし、週休2日制を導入しました。4人のパートさんの時と比較すると経費はかかりますが、少人数の時は仕事に追われ、作業が荒くなり、最後にはどこから手をつけてよいのか分からなくなるほどでした。でも、人数が増えることにより仕事の方を追いかけられるようになると、その結果、作業も早く、仕事もきれいで、収穫も増え、品質も良くなり、おのずと収益も上がってきました。



婦人親善インディアカ大会



11月28日に、町民会館で、地域公民館連絡協議会主催の平成11年度婦人インディアカ大会が行なわれました。

9チームの参加で、リングリーグ方式で争われた結果は次のとおりです。

- 優勝…宝見チーム
- 準優勝…神崎1チーム
- 3位…南木Aチーム

しかし、作業がつかえてきたときは、特別に土曜日や日曜日も出勤してもらい、作業の調整をしています。そのお陰で、急な休みなどが起こっても、それからは気にならなくなりました。

夫も、ハウス栽培を私に任せるようになった分、普通作の麦や大豆の作付け面積を拡大し、所得も大幅に向上しました。また、嬉しいことに、全国豆類経営改善共助会で、「農産園芸局長賞」を受賞することもできました。

以下中略

農業は、他人の人から見れば汚れるし、重労働だし、日曜日もない厳しいものだと思われがちです。でも、サラリーマンのような安定した収入の保障はありませんが、努力次第でいくらでも高収入が可能です。また、私も農業の中心的な働き手として、重要な役割を担っている今、お互いを尊重し農業経営のより一層の向上を目指して、家族経営協定を夫と結びたいと考えています。

私は上しか見ません、前進あるのみです。夫が60歳になった時に、「子ども達に後を譲りたい」などとは言いません。子ども達から将来「農業を継がせて下さい」と言ってくるような、ゆとりのある豊かな農業経営をすることが、私の今の夢です。



善戦 九州身体障害者ゲートボール大会

第15回九州身体障害者ゲートボール大会が、11月11日に別府市野口原運動公園で行なわれました。

九州各県および沖縄県の予選を勝ち抜いた32チームの参加で大会が行なわれ、福岡県代表として参加した金田町身体障害者福祉会ゲートボールチームは、別府市、鹿児島県、宮崎県チーム対戦し、1勝2敗と善戦しました。

この大会とおして、他県から参加されたみなさんと、お互いの体力の維持と健康増進、そして親睦が図れ交流することができました。